

# 長崎の林業

小曾根星堂書



緑の少年団地域交流集会「ご飯はできたかな？」（島原）

9

## 目次

● 林政だより	9月以降も油断大敵～9月以降の山地災害について～ カーボンオフセット証明書授与式 .....	2～3
● 特集記事	森永材木店 森永隼人社長 .....	4～5
● 林業普及だより	五島ヒノキ材の“ウリ”はなんだ!? No.3 .....	6
● 地方だより・県央	県内初 松くい虫防除に無人ヘリコプター登場 .....	7
● 地方だより・島原	平成30年度緑の少年団地域交流集会 .....	8
● 林業団体情報	平成30年度林業研究グループ研修会 .....	9
● センターだより	原木シイタケ品質向上・発生量増加のための被覆技術 ..	10
● 紹介コーナー	(有)川添竹材商店 .....	11
● 森の紙芝居とAcoustic Live inながさき県民の森 .....		12



2018  
No.756

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！



この用紙は、日本の森林を育てるために  
間伐材を積極的に使用しています。

FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。  
「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

林政だより

9月以降も油断大敵！～9月以降の山地災害について～



風倒木被害（対馬市）



豪雨災害（杵岐市）

9月前後の台風には要注意！

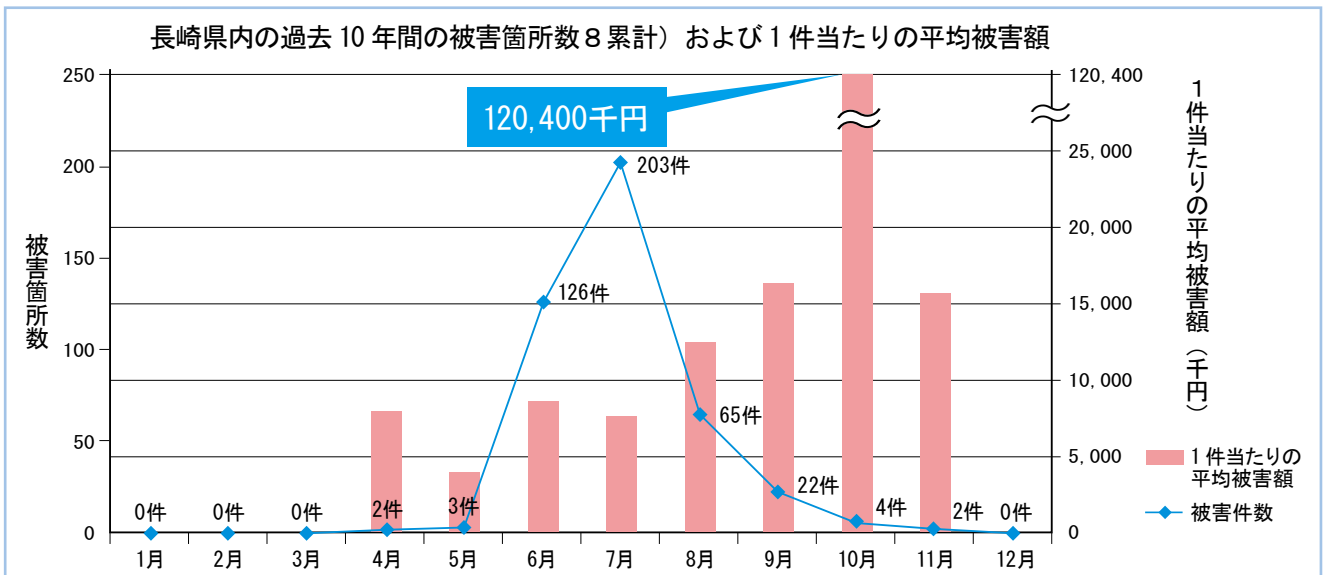
近年、豪雨による災害が全国各地で発生しています。今年も6月28日から7月8日かけの豪雨により西日本を中心に各地で被害が相次ぎました。幸い長崎県では大きな被害はみられませんでした。今後豪雨災害には細心の注意が必要といえます。

特に9月前後に発生する台風については要注意です。なぜなら日本列島を覆っている太平洋高気圧の勢力が8月下旬から徐々に弱まり、南下することで台風が日本付近に接近、上陸するルートが形成されやすくなるからです。台風の上陸に伴い、災害が発生する危険性も高まるため、引き続き注意が必要となります。

長崎県の災害状況は？

長崎県では、毎年被害箇所数に違いはあるものの、県内各地で山地災害が発生しています。下記のグラフは過去10年間のデータをまとめたものです。

例年梅雨期である6月、7月が最も多く災害が発生していますが、梅雨期以降も災害は発生しています。さらに1件あたりの平均被害額で見ると梅雨期以降の災害は被害額が大きい傾向にあることが分かるかと思えます。言い換えると頻度は少ないものの災害が発生した際は、被害が甚大になる危険性が高いということです。



## 防災意識を常に持つことが大切！！

災害は、梅雨期に起きやすいと思われる方も多いかもしれませんが、近年は梅雨期以外にも記録的な豪雨が突発しており、いつ災害が起きてもおかしくない状況です。実際に9月以降も台風の上陸、それに伴う暴風や豪雨などにより全国各地で災害が発生しております。このような中、常日頃から情報を事前にキャッチするなど、自らを守る自助と周辺の方々と協力し合う共助による自主防災が、災害の被害を最小限に抑える手段のひとつといえます。

また、長崎県総合防災ポータル (<http://www.pref.nagasaki.jp/sb/>) では、県内に発令されている注意報および警報の確認、緊急情報、被害状況の確認等ができます。さらに長崎県総合防災 GIS (<http://www.pref.nagasaki.jp/sb/gis/agree.php>) では山地災害危険地区な

どの災害危険地区や避難所などがご覧になれます。ぜひ活用してください。

そして、避難勧告が出された際は、「自分は大丈夫。」と過信せず、近くの避難所へ避難しましょう。万が一災害が発生した場合は速やかに「110番」か「119番」に通報をしてください。

なお、長崎県では、実際に被害のあった箇所や危険性の高い箇所について、国の補助事業、県の補助事業、市主体の補助事業、いずれかの事業にて復旧および予防工事を実施しております。箇所によっては治山事業での工事が困難な場合もありますが、「山が崩れた！」「石が落ちてきそうで怖い……。」など何かあればお近くの長崎県各振興局森林土木課もしくは林務課に問い合わせをお願いします。

(森林整備室 治山班)

## カーボンオフセット証明書授与式



左から中村氏・矢部氏・西村氏・佐賀里氏

長崎県林業公社（理事長・中村功農林部長）、対馬市（西村圭司農林水産部長）、真樹販売株式会社（佐賀里政則代表取締役）は平成30年7月5日、諫早市の住宅会社ヤベホーム株式会社が国のJ-クレジット制度を活用し、ZEH住宅建築に伴い排出される二酸化炭素 60 t-CO<sub>2</sub>分を削減したとするカーボンオフセット証明書を手渡しました。ヤベホーム株式会社はこれまでに計10回約900 t-CO<sub>2</sub>のカーボンオフセットを実施しています。

カーボンオフセットとは、経済活動などで排出されたCO<sub>2</sub>を植林・森林保護などによって「他の場所」で直接的、間接的に吸収しようとする考え方です。

J-クレジット制度とは国がCO<sub>2</sub>の吸収量や削減量を数値化して売買可能とした制度。

長崎県内では、真樹販売株式会社、対馬市、長崎県林業公社の3団体がクレジットを保有しています。

(林政課 計画調整班)

【特集記事】



森永材木店  
森永 隼人 社長

今回は、森永材木店（南島原市有家町、森永隼人社長と奥様）を訪問しました。お店はイチヨウのまな板を製造・販売しており、二人三脚で頑張っています。

### 材木店がイチヨウのまな板を製造販売

平成15年頃、当時バブルがはじけて経営にも少なからず影響が出ていた頃、折しも南島原市では、一店一品運動を奨励してありました。南島原市には、味噌蔵や酒蔵、ソーメン蔵などの多くの蔵があり、蔵めぐりを通じて多くの人に地元の生活や文化を知ってもらい、ひいては交流人口の拡大を図り地域を活性化しようとする取り組みです。

森永材木店でも店の特色を考えていたところ、ふとした偶然から、先代が残した200枚ほどのイチヨウのまな板を倉庫で見つけました。先代がまな板を製造していたことなど露ほども知らず、そのまな板を試しに販売したところ、あっという間に売れてしまったそうです。

それが、まな板を製造・販売するきっかけとなり、今ではまな板がお店の売り上げの多くを占めているそうです。

イチヨウの木は、材質が柔らかく、殺菌

作用・薬用効果があり安心して脂身がある為、水切れが良く材料が均一で凹みにくい特徴があります。しかし、水分が多く変形しやすい為、10年間の自然乾燥が必要です。人工乾燥では、濡れたり乾燥したりの繰り返しですので、数年でひび・割れ・反りが入ります。自然乾燥にこだわる理由がここにあります。



大小多数のイチヨウのまな板

お店では、送料を負担して戴く事を条件にまな板の凹みを無料で補修しています。まな板づくりは次のようにして行われま

す。まず、熊本県で開催される銘木市で、イチヨウの原木を購入します。次に、原木を森永材木店に持ち帰ったら、自社の製材機でまな板を製造します。そして、出来上がったまな板を、10年間自然乾燥させます。

イチヨウの木は柔らかく、建築材にならないので植樹は行っていません。九州でイチヨウのまな板を製造、販売しているお店は、福岡県、宮崎県と長崎県の森永材木店3か所だそうです。森永材木店では、店頭販売によるお客様のほか、ふるさと納税のお返し商品、結婚披露宴の引出物、快気祝いなど多くの需要があるそうです。

## 林業体験と民泊

森永材木店では、林業体験の一つとして「マイ箸づくり体験」を実施しています。

刃物を使うとけが人が絶えなかった苦い経験から、サンドペーパーを使用してマイ箸をつくり、仕上げにオリーブオイルを塗布しています。毎年700人が体験するほどの人気で要予約とのことでした。



マイ箸づくりで利用する材料

森永さんは、民泊も実施しています。きっかけは、交流人口の拡大を目指す南島原市役所の提案によるものでしたが、今では日本人だけでなく、中国、台湾、韓国及びドイツなどインバウンドの旅行者も併せて受け入れています。

民泊の活動内容をお聞きしてみると、薪割り、五右衛門風呂の焚きつけ、かまどで

のご飯炊きなど、一昔前の日本人が生活のために実施していた家事を宿泊者に体験させているそうです。IH化の進んだこの時代に、マッチの擦り方さえ知らない宿泊者もあり、驚かされることもしばしばあるそうです。インバウンドの旅行者に対しては、スマートフォンの翻訳サービスを利用して片言の外国語とジェスチャーで乗り越えておられるそうですが、なかでもご夫婦の笑顔がとても印象的で訪れた方もほっと一息できていることでしょう。

昔ながらの生活のなかで自然を感じ日々の疲れを癒してみたいかかでしょうか。



愛のかけ箸など様々な小物も



### 森永材木店

住 所：南島原市有家町山川 1224

電 話：0957-82-2471

定休日：毎週水曜日

(NPO 法人地域循環研究所)

林業普及だより

# 五島ヒノキ材の“ウリ”はなんだ!? No.3 ～五島の小さな製材所で出来ること～ 「2017.10月号, 2018.5月の続報」

## 五島ヒノキの内装材の開発について (これまでの経緯)

五島市内の製材所7者(森林組合含む)で、昨年5月から、五島の林業・木材業の発展のために“何が出来るか?”について議論・実践してきました。その結果、温泉熱で木材を乾燥させることに挑戦し、『五島ヒノキ温泉乾燥材(内装材)』の開発に成功しました。

## 五島ヒノキをモデルハウスに利用!

温泉乾燥材は低温で乾燥させるため、天然乾燥と同様に色艶・香りが良いのが特徴です。県産材住宅を手掛けるヤベホーム(株)(諫早市)にお話をしたところ、「モデルハウスで利用してみよう」と言っていたいただき、今年8月からモデルハウスの壁板として使用していただきました。来場者からは「香りが良くて心が落ち着く!」「家を建てる時は、五島のヒノキを使用したい」などの意見もあったようです。

今後も、一般住宅の子ども部屋や寝室などでも五島ヒノキを使用し、PRしていただくこととなっています。



モデルハウス(諫早市多良見町)

## 今後の展開について

今後、五島ヒノキ温泉乾燥材の商品化および安定取引に向けて、品質の安定化、製造・出荷体制(製材工場の組織化)などについて協議を深めることとしています。そして、まずは100坪/年の内装材(羽目板)の安定供給からスタートし、五島ヒノキの知名度を上げていきたいと考えています。

まだ、取り組みは緒に就いたばかりですが、五島の小さな製材所が一丸となって大きな一歩を踏み出すよう期待しています。



五島ヒノキ温泉乾燥材を手にとって、製材所とヤベホームとの打合せ



五島ヒノキの知名度アップを祈念して記念撮影  
(五島の製材所とヤベホームの皆さん)

(五島振興局 林務課)

地方だより

県内初

## 松くい虫防除に無人ヘリコプター登場！

平成30年6月21日に松くい虫防除のため無人ヘリコプターによる薬剤の散布が行われました。

松くい虫の被害は、マツノマダラカミキリ（体長約3cmの甲虫）によって運ばれるマツノザイセンチュウ（体長約1mmの線虫）がマツに寄生することによって、マツが枯れていく病気です。

今回、薬剤散布が実施されたマツ林は、西海市大瀬戸町雪浦下釜郷にある、雪浦海水浴場に隣接するマツ林（1.35ha）です。このマツ林は、陸側にある墓地や人家を、海風や飛砂から守るといった大切な役割を担っているため、地元住民の要望により、市が業者に委託し、毎年防除作業を行っています。



現地打ち合わせの様子

無人ヘリコプターによる薬剤散布を導入した背景には、①マツの樹高が高くなり、地上からの散布方法では、マツの若い樹皮を好むマツノマダラカミキリが集まる樹冠部まで薬剤が届かない状況にある ②無人ヘリコプターによる散布は、マツ1本1本に薬剤をかける地上散布に比べて、樹冠の梢端部に対する効率的な散布が可能である ③防除の作業に従事する者に薬剤がかかりにくい等の利点があります。

薬剤散布を実施するにあたって、樹冠部全体にむらなく薬剤を散布すること、水源地、

養殖池に薬剤が飛散、流入しないようにすること、人に薬剤がなるべくかからないようにすること等、注意する必要があります。

市は、事前の注意喚起として、該当地区の代表者に文書回覧の依頼、実施2、3日前には対象松林付近の住宅に訪問し、事業の説明を行いました。

当日、上昇気流が発生する時間を避けるため、朝の6時に現地に集合し、基準値内の風速を確認しながら、付近にいる方へ散布薬剤に注意する旨の声かけ等を含め、約2時間かけて作業を実施しました。適切な薬剤散布実施のため、高所作業車に操作者が乗り、無人ヘリコプターの位置と経路を、目視とGPSで確認しながら操作していました。

作業をする中で、10人以上の人員で行う場合もある地上散布に比べ、無人ヘリコプターによる薬剤散布は、「無人ヘリの操作」「薬剤の出し止めの調節」「見回り」の3人で進めることができ、作業効率の良さを実感しました。



薬剤散布中の無人ヘリコプター

無人ヘリコプターでの松くい虫の薬剤散布は、県内で初めての試みでしたが、今後この事例をきっかけに現場条件によっては、有効な散布方法として、無人ヘリコプターの活用が期待されます。

(県央振興局 林業課)

## 平成30年度 緑の少年団地域交流集会

### 活動発表大会

8月18日(土)、雲仙市千々石町にある県立千々石少年自然の家にて平成30年度島原地区緑の少年団地域交流集会が開催されました。今年は5団少年団から、団員57名、指導者・保護者22名が参加しました。

まず、活動発表大会では各団の一年間活動してきた内容について発表しました。どの団もクラブや習い事などで忙しい中、花の植え替えや森林での野外活動、植樹祭への参加など積極的に活動していました。審査の結果、岩戸小緑の少年団と愛野町緑の少年団の2団が選ばれ、全県交流集会で発表する予定です。



この活動発表を通して、他の団の活動を知ることによって「うちの団もあんな活動をやってみよう。」などという指導者の方の声も聞かれ、緑の少年団の活性化につながるのではないかと思います。

### カレー作り

昼食は野外でのカレー作りを行い、普段はできない体験ができました。飯ごう係、カレー係と自分たちで役割分担を決め、時間はかかりましたがみんなで協力して作ったカレーはとてもおいしくておかわりする人も多く、お腹も大満足だったようです。

### 木工制作

木工制作ではミニケース作りを行いました。高学年は自分で、低学年は保護者に手伝ってもらいながら完成を目指しました。予定より作業時間が短くなってしまい大変そうでしたが、頑張っておりました。



### 森林学習

また、「山からの贈り物」という紙芝居を通して森林の持つ機能や、木材によって住宅やノートなどが作られることを学び、改めて森林の大切さを感じている様子でした。



交流集会を通し、発表大会においては一年間の少年団が行った活動を発表することで自分たちの活動を見直し、他の団の発表を聞くことで今後の活動の参考や刺激につながったのではないかと思います。また、カレー作りや木工制作では少年同士の仲が深まる良い交流の機会になったと思います。今後の少年団がさらに活躍されることを願っています。

(島原振興局 林務課)



## 林業団体情報

## 平成30年度 林業研究グループ研修会

### ～ 難しい後継者、厳しい山仕事 ～



ながさき森林環境税を活用して、県内林業研究グループの研修会が平成30年8月9日(木)～10日(金)の2日間で行われました。講師を招いての講演、九州大会での発表のリハーサル、林業の課題についてのディスカッションが行われました。ディスカッションの中では、成長化産業と言われている林業ですが、後継者や現場労働者不足等、難しい問題があることも改めて浮き彫りになりました。

#### 講演 一木の駅プロジェクト

高来町山林協議会の方に「頑張っています。たかき木の駅プロジェクト」と題して講演を行っていただきました。このプロジェクトは、間伐後、放置されている木材をなんとかしたいとの思いから始まったもので、講演者の増山さんは、「林地残材を木の駅に運び、販売し、地域通貨で購入してもらうことにより、商店街の活性化にも繋がっています。事業の継続が課題でしたが、現在では、事業も軌道に乗り、賃金も出せるようになり、商店街も喜んでいきます。」と話されました。受講者は、こういったユニークな活動が、商店街活性化に繋がっているということを知り、感心していました。

#### 課題をディスカッション

林業研究グループと県の林業普及指導員とのディスカッションでは、課題となっている

「五島椿苗木の販売戦略」と「皆伐再造林」について意見交換を行いました。

五島椿苗木販売については、国土交通省の船賃の補助の活用について意見が出されました。また、皆伐再造林については、木材価格の安さ、後継者不足、山仕事の大変さなどの問題があり、難しい問題であるという意見が多くあり、今後の課題が見えてきました。

#### 現地研修会

研修会2日目は、先進的取組みを行っている波佐見町の東彼林業研究会の活動状況を視察しました。このグループのハラン栽培と、しいたけ栽培の現場を案内してもらい、夏場には育ちにくい椎茸栽培を行ううえで、椎茸のホダ木の菌に秋を感じさせ、成長させる手法を学ぶことができました。

また、波佐見町内にあるCLT構造の民家も見学し、参加者も興味深そうに見学していました。



(長崎県林業研究グループ連絡協議会)

センターだより

# 原木シイタケ品質向上・発生量増加のための被覆技術

## はじめに

本県は全国でも有数の原木シイタケの産地で、そのほとんどが対馬で生産されています。当センターでは対馬での原木シイタケ栽培の品質向上・発生量増加を目的として試験研究を行ってきました。今回はその一部分をご紹介します。

## 被覆によるホダ化促進試験

この方法は植菌後の仮伏せ時にビニールで被覆し、温度と湿度を一定に保つことで、乾燥に弱い形成駒でのシイタケ菌のまん延を促進させることが期待できます。そのことにより、初年度のシイタケ子実体の発生量の増加につながり、シイタケ生産の収益性を向上させることが目的です。

植菌日は平成29年3月3日、仮伏せ期間は植菌後から同5月16日です。被覆区は植菌後、4月中旬まではビニール被覆＋遮光ネット、4月中旬以降はビニールと遮光ネットの間にダンボールを入れ、屋外で仮伏せしました。

また、無被覆区は遮光ネットのみで覆い、寒冷紗の下で仮伏せを行いました。このときの温湿度の分布を示したものが図1になります。

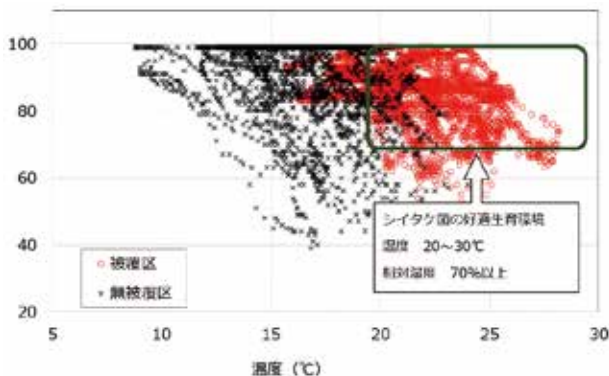


図1. 仮伏せ時の温湿度分布

この図から被覆区ではシイタケ菌の成長好適温湿度帯にはいっている割合が多いことがわかります。

また、仮伏せ後に、ホダ木断面の菌まん延率を測定した結果でも被覆区が高く、1年目シイタケ子実体発生量でも被覆区が無被覆区より3.3倍も多い結果となりました。

(表1)

表1. 被覆の有無によるホダ化と1年目の発生量

区分	菌まん延率 (%)	m <sup>3</sup> 当たり発生量 (%)
被覆区	64.5	3.3
無被覆区	50.5	1.0

※植菌条件：菌興115号（形成駒）、4000個/m<sup>2</sup>  
※原木：アベマキ

これらの結果から、この方法はホダ化の促進に効果的であり、1年目発生量も増えることから効率的な経営に繋がるといえます。

## おわりに

今回はこれまで行ってきた試験研究の一部をご紹介しましたが、他にも「雨除け被覆によるシイタケ品質向上」や「冬期（乾燥期）における被覆によるシイタケ増収」の試験を行っています。それぞれの方法でも、原木シイタケ生産の効率化や高品質化につながる結果が得られました。

これらの技術は、また今後ご紹介したいと思います。



ビニール被覆によるホダ化促進

(長崎県農林技術開発センター)

## 紹介コーナー (有)川添竹材商店



### 有限会社 川添竹材商店

電話：095-838-6324  
 営業時間：午前8時～午後6時  
 定休日：日曜日、盆正月

(有)川添竹材商店は、古賀植木まつりが開催される長崎市植木センターの隣にあります。本社は大村市ですが、サービスの向上を目指して平成8年に長崎市松原町に進出してきました。

松原町には、植木屋や造園会社が数多く存在しており、この商店は和風庭園の造園資材やガーデニング用品の販売を通じて、多くの人に癒しの空間を提供しています。

このお店で販売される竹製品は、地元産のほか佐賀県、熊本県産もあります。また庭石や灯籠の販売から南部鉄瓶の販売まで多様なニーズに応えており、造園関係製品の品揃えは群を抜いています。天然竹製品の落ち着いた佇まいは、見る人にしみじみとした風情を感じさせるつくりになっています。

東長崎地区にお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

## 伊万里木材市況

### 【ヒノキ】

平成30年8月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16～18	直	18,900	少ない	多い	多い
	16～18	小曲り	17,000	少ない	多い	多い
	20～22	直	17,200	少ない	多い	多い
	20～22	小曲り	16,400	少ない	多い	多い

### 【スギ】

平成30年8月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18～22	直	14,000	少ない	多い	多い
	18～22	小曲り	12,800	少ない	多い	多い
	24～26	直	14,100	少ない	多い	多い
	24～26	小曲り	12,500	少ない	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

## 森の紙芝居 と Acoustic Live in ながさき県民の森

ながさき県民の森（以下、県民の森）は、西日本有数の規模（382ha）を誇る森林公園で、今年で開園 50 周年となります。

久しぶりに県民の森に行くと、小鳥のさえずり、木漏れ日の上に広がる青空、溪流のせせらぎが優しく迎えてくれます。やはり、県民の森は、素晴らしいと改めて感じました。



溪流のせせらぎ

9月15日（土）に県民の森の森林館にて、音楽仲間で「森の紙芝居と Acoustic Live in ながさき県民の森」を開催しました。

目的は、県民の森開園 50 周年を迎えるにあたり、今まで県民の森に来たことがない方々が、行きたいなと思ってもらえるきっかけづくりになればと思い開催したものです。



森の紙芝居

来場者は約 50 人で、お子様連れのご家族も多く、森の紙芝居、森の朗読に釘付けになりながら、ご家族で楽しく森のことを学びました。

また、アコースティックライブでは、木造の森林館で優しく響く音楽に包まれながら楽しい時間を過ごしました。

最後の森のジャンケンプレゼント大会では、このイベントの主旨に賛同された木工所などから木製椅子やお菓子が提供され、会場は子供も大人も大いに盛り上がり、笑顔いっぱいのライブになりました。

ある、お子様連れのご家族からは「このライブの開催をホームページで見て、はじめて県民の森に来ました、とってもよかったです」、「次のライブは、いつ開催しているのですか」など嬉しいお言葉をいただきました。

最後に、このライブに関わって頂きました多くの皆様のご協力に心より感謝し次回の開催（未定）でもご協力をお願いします。

### ●プログラム

- 1 森の紙芝居「森からのおくりもの」
- 2 R-band (Acoustic Rock)
- 3 森の朗読「ロボ木ー」
- 4 こまいぬ (Acoustic Duo)
- 5 カワシロ (Acoustic)
- 6 森の朗読「どうぞのいす」
- 7 楽しい森のジャンケンプレゼント大会

（林政課森林活用班）

長崎の林業 9月号 第756号  
編集・発行 長崎県林政課  
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号  
電話：095-895-2988  
ファクシミリ：095-895-2596  
メールアドレス：  
s07090@pref.nagasaki.lg.jp